

正法寺(東松山市)



日本百観音石仏







四国八十八ヶ所石仏





さまざまな石造物/「奉造立寶篋印塔」とある













左手の道を進むと「県指定史跡 正法寺六面幢」がある





ここを左に進む





正面に六面幢が見えてくる





埼玉県指定史跡となっている



正法寺の六面幢

県指定文化財

この六面幢は、緑泥片岩（青石）の六枚の塔婆を組み合わせて六角柱を作り、その上に六角形の笠石をのせてあります。高さ一〇七cm、板石の大きさは横三六cm、縦一〇一cm、笠石の直径一二八cmです。

笠石の周縁には飛雲・裳裾には双竜と宝珠、宝相華や飛雲が線刻されています。

板石にはそれぞれ銘文が刻まれています。その銘文によると、天正十年（五八二年）二月に、岩殿山の僧道照が俊譽・妙西・道度・俊意らの菩提を供養するために建立したものと思われます。

六面幢は、鎌倉時代から室町時代に建てられたものですが、現在知られているものは極めて少なく、正法寺のものは、年代的にも新しいものです。

- 日 (鑿子) 阿闍梨三母 關山堂後弟子 後法法師成仙 又正十年改齊中日
- 上替文頂 可成崇礼成華
- 日 (鑿子) 阿闍梨三母 妙西佛光
- 日 (鑿子) 六地教養 道度信尼成宗
- 日 (鑿子) 大日如来 俊意法師
- 山岳別立文 文損
- 岩殿山花神山山居
- (鑿子) アキラウシケン 道照舟位

昭和五十八年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしよう

六枚の塔婆と笠石でできている/緑泥片岩











この面の石は剥がれてしまっている





